

糸魚川市駅北まちづくり会議 第5回実践会議 記録

日時	令和2年7月29日(水) 18:30~20:30	会場	駅北広場キターレ
進行	<p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議 題</p> <p>(1) 駅北まちづくり戦略(素案)確認</p> <p>(2) 全体の目指す姿</p> <p>(3) 実践活動の推進にあたって</p> <p>(4) 実践活動について</p> <p>(5) にぎわいの拠点施設の方向性について</p> <p>4 連絡事項等</p> <p>5 閉 会</p>		
出席者	<p>花重 磯貝 正子 株式会社カネタ建設 代表取締役 猪又 直登 フリーランス(翻訳) エマ パーカー 有限会社二葉デンキ商会 代表取締役 加藤 康太郎 EKIKITA WORKS 幹事長 木島 嵩善 BASE968 取締役 小出 薫 加賀の井酒造株式会社 第18代蔵元 小林 大祐 おもちゃや木のこ 代表 齊藤 里沙 まちづくりらぼ 副代表 野村 祐太 リノベーションスクール@いといがわ 企画者 藤岡 あかね EKIKITA WORKS 代表 本間 寛道 リノベーションスクール@糸魚川 企画者 松木 美沙子 株式会社清耕園ファーム 横井 藍 外部アドバイザー 西村 浩(座長)</p>		
会議概要			
<p>1 開 会</p> <p>開会にあたり、座長が遅れるため、配布の資料を先に説明 = 資料1、資料2、資料4 説明 = (事務局)</p> <p>2 あいさつ(座長)</p> <p>多くの人から、コロナの中でどのようなまちづくりをしていくのかを聞かれている。これから大事なのは屋外空間。それを上手に使って三密を避けて豊かな暮らしを作っていく。</p> <p>子どもはストレスがたまるので、屋外で遊ぶには、安全な道路か公園しかない。今までやらなかった遊びを屋外で体験できた人も多いのではないかと考えている。糸魚川を含めて、居心地の良い屋外空間がある市町村の人気のでてくると考えている。</p> <p>今までの議論を踏まえて、新たに屋外空間を使うという視点も出てきてもいいと考えている。</p>			

3 議 題

(1) 駅北まちづくり戦略(素案)確認、(3) 実践活動の推進にあたって

(座長) 先に説明した資料でご意見等あればお聞かせください。

(委員) 23ページについて、介護保険料の維持、給付費の低減はいいが、総合事業で実情にあった展開を専門家だけでなく一般の人と作れるというところにメリットがあると思う。

(座長) 全国の自治体が財政的な目標はあると思うが、違うところにも振り分けて効果を出していくというところでしょうか。

(座長) 意見ですが、高齢者だけでなく、子どもの頃からの運動習慣が大切と考えています。スポーツ振興の言葉を加えてはどうかと思う。

(委員) この会に参加させてもらい、まちづくりとは何かを考えるきっかけになった。多くの人が仕事と家庭に時間が割かれているのが現状。そのなかで、まちづくりを実現していくには、楽しさややりがいをどう作っていくのか大切と思う。また、戦略の大義は何かを皆で共有することが大事と感じている。

(座長) 「戦略とは」のところに「できることから始めることで働き方暮らし方を実現するため。」とあり、まちづくりを思い描くものは個々に違う。まちづくりは日常を作ること。普通の日常のなかで考えていくことが大事だと思う。

(2) 全体の目指す姿

(座長) 皆さんに宿題をお願いしていました。キャッチフレーズ的な言葉を皆さんで考えたいと思う。いただいた紙をもとに説明する。

(事務局) 傾向があり、1つ目は「つながる」、2つ目「暮らし」、3つ目「外に向けたメッセージ」になっている。

「つながる」に関連して、つながる糸魚川 ひろがる未来“みえるみらい”(点と点がつながる面と面もつながる人と人がつながる大人と子どもがつながる企業と人がつながる)、つながる豊かな暮らし、こころ・つなぐ・まちなか(ココロ・ツナグ・マチナカ)、つづく つながる つたえあうの提案。

「暮らし」に関連して、くらしのCo-Jo、くらしのシェアモール、私らしい暮らしができるまち、暮らしにコミット糸魚川(コミット=目標に対して責任を持ち、深く関わる約束・貢献・完遂・責任・尽力・向き合う)、向上!QOL² city 糸魚川(クオリティ オブ ライフ Life ラッキー Lucky ローカル Local ラスト Last ロケーション Location ラブ Love…)、郷土愛:暮らし豊かに多くが集う、老いも若きも助け合い支え合い まちなか大家族、しぜん和幸福に暮らせる街、糸魚川の提案。

「外に向けたメッセージ」に関連して、like a dreamland(夢の国)、きたくなる(北と来たくなる)、糸魚川の魅力がまるわかりできる大きな窓口、当事者意識をもつ(自分ごとだと思う)人が増えていくエリア、糸魚川らしさがぎゅっとつまった玄関口、ありがとうと出逢うまち~楽縁~*論語「子曰く、これを知る者は、これを好む者に如かず。これを好む者は、これを楽しむ者に如かず」、卒なんて(おまん よ~きたねえ 糸魚川な

んて なんてなんて…)、A place for the future (未来への場所) の提案。

(座長) 気づきや感想などございましたらお願いします。

(委員) ぐっときたのは、自然と暮らすまちの“自然”は、山や川等の自然とありのままの状態の自然の2つの意味があると思った。観光して楽しいというよりも、暮らして楽しいまちだと思っていてそれが伝わっていけばいいなと思った。

(委員) 「つながる」が多いなど。物理的なつながりだけでない気がする。

(座長) 無理せずにとという印象感でしょうか。

(事務局) 「つながる」は先を見てつながろうとするメッセージと思う。時間軸的につながり、広がり、新しいものが生まれてくるというメッセージかと思う。

(座長) 先が予測しづらい時代だから、軌道修正しながら進めていく必要がある。この目指す姿は、立ち返ったときに確認できる言葉がいいと思う。大家族という言葉が気になっていて、市民全員が家族とするとどんなことも乗り越えられるのではないかと。皆さんからいただいた意見や今回の感想などを踏まえて、次回に改めて複数案を示します。

(4) 実践活動について

(座長) 次に移ります。具体的に行動に移せるかがこの会議の役割で、どのようなことをやっていくかを発表してもらいます。皆さんの行動をみて私たちもやりたいという人達が増えていくことを期待しているところです。

【子育て】

○まちなかアソビバ

(委員) まちなかアソビバについて、何か特別なものを置くものでない。土日に家族ででかけるときは市外にでかけることが多いが、その出先が駅北になれば楽しい。他者とのコミュニケーション、暮らしのなかに繋がってくる。

(委員) 早川地区でも実施されているがコンセプトに違いがあり、まちなかのコンセプトは“学び場”。幼児でなく小学生以上がプログラミング等で学べるところになっている。

○まちなかプライド

(委員) 大火によって地域内のつながりが大切だと考え、地域住民をターゲットにした活動を進めたい。夏には地域の人と接点を持つことや子どもの夏休みの宿題ができる場になればいいと考えている。冬にはイルミネーションの活動を進めており、今後も続けていきたいと考えている。

(座長) お祭りの意味を知ることが大事で、一風変わったお祭りにも意味があり個性がある。その云われ等を受け継いでいくことが大事だと思う。ぜひ守ってもらいたい。

【地産地消】

○まちなかミニ農園

(委員) 始めたきっかけとして、大火によって自宅で菜園をしていた人ができなくなっていたことや周辺の緑が少なくなった。育て方は生産者に教えてもらいながら、コンテナ栽培をしてい

ると声をかけてくれる住民もいて、今後もいろいろなことに関われるような企画を残したい。子ども達も来ていて、自分で作った野菜っておいしいという気持ちを育み、スーパー等に行った際にも地場産の野菜等に興味をもつ仕掛けにならないかと考えている。自分で作る、つかうという習慣ができればいいなと考えている。

○料理教室

(委員) 地産地消がよく言葉を使われているけど、単純に地元で消費すればよいということでもなく難しいなと考えている。糸魚川で作られているという点を伝える手段の1つとして取り組みやすい料理教室を考えた。多世代との交流が難しいと感じたので、ベテランの女性たちに声をかけて駅北にでてきて糸魚川の食の成り立ちや郷土料理の文化などを広げていければと考えている。

(座長) 農園と料理教室だけでこれだけ語れる。地産地消は地元の価値をどのようにクローズアップしていこうかと考えていくといろいろな物語がある。その物語を子ども達に聞いてもらうことでシビックプライドの醸成にもなる。実践しつづけていかないと物語は増えていかないし、その先につながらない。

○マルシェ

(委員) 毎週土曜日に朝市をしている。もともと駅前通り沿いに朝市があったと聞いていた。既存の市と相まって人の流れが変わってきた。最初は小さな市だったけど、今では数店舗の出店になっており、売り上げも上がってきている。

(座長) 全国でマルシェが多発しているが、運営者が面倒見ているマルシェは続かない、お構いしないマルシェは続いている。無理せずに続けられるものを軌道修正しながらやっていくことが大切。

○まちなか健康運動

(委員) もともとGEO体操プログラムがあったが、なかなか1人でやる機会はない。地元の大町区、新七、緑町に広報している。9月8日から開始したい。

(座長) 大東市の元気でまっせ体操。同じ時刻で同じタイミングでやれる展開などができると良いと思うし、加えて参加者の楽しみが無いと継続しない。健康は積み重ねなので、最終的に習慣になれるかどうか、プロモーションをいかにして行くかが大事。

(座長) 委員の皆さんから感想、意見ありますか。

(委員) 部会で分けているが、連携できる活動が多い。連携のモデルがたくさんできるといいと思う。

(座長) 一定の人だけだとその発想に固まるが、人が広がると発想も活動の質も上がる。

(委員) キターレの厨房に出店しての感想だが、いろいろな年齢層の皆さんにPRできる場所になると感じている。

(座長) まちなかにも活動が分散、広がっていくことが大切。

(委員) まちなかアソビバであれば高齢者に声がけしていただければ、昔の遊びや紙芝居ができたり、奴奈川姫の物語、絵を描くこと、物を作ること等も伝えることができる。お祭りは大切で、多世代が交流する大家族の絆を作る場になる。まちなかミニ農園は自分で作って食べる実感、料理は食の伝承みたいな形で残す。市(いち)のなかで商売競争などが生まれることは良いと思う。これらを地域みんなで盛り上げていくというところは、まちづくりの基本だと思う。

(座長) 上手に大家族のキーワードを引っ張ってもらって良かった。

(委員) アソビバもやろうと思っていますけどコロナウイルスもあるので心配しています。お年寄りも一緒にと思っているし、今は親だけがやっている状況が気になっている。

(座長) 日常的に会っているという関係があるといいと思う。

(委員) 高齢者が、教えてあげられるという状況が大切でないか。

(委員) いかに商店街に回遊していくかが大事だと考えており、今まで来たことが無いお客が来るようになっている。

(委員) 駅前通りで商売しているが、土曜キタ市が始まって人の流れが変わったように感じている。常連でなく、ふらっと入ってくる人も増えてきていると思う。人の流れが変わってきているので、そこから自分の商店にお客を招き入れる工夫は個店の課題としてあると思う。

(5) にぎわいの拠点施設の方向性について

(座長) 次のにぎわいの拠点施設について資料の説明をお願いします。

=資料3 説明=(事務局)

(座長) にぎわいの拠点施設について、私の方から行政でできるところをはっきりした方がいいと申し上げた。行政としてやらなければならないことは他にもまだあるが、今、駅北で何が必要かを議論したい。色々なところで話題になっているので、委員だけでなく傍聴いただいている皆さんからも手を挙げて発言してほしい。私から1つ質問があって、市保有の場所はどこか。

(事務局) 旧井上商会の倉庫跡地で面積は約660㎡。

(座長) その場所を利用することはわかった。この施設だけで完結でなく、機能連携しながら運営したいということで、その機能の1つが具体的に定まってないが「子育て支援機能」ということで、行政側で検討して提案したということで良いか。

(事務局) 良い。

(座長) これからのことだが、にぎわいの拠点施設という名称を変えたほうが良いと思っている。委員の皆さんからご意見等あるか。

(委員) 大きさでいうとどの程度なのか。

(委員) 予定地には建物は今あるのか。

(事務局) 敷地面積はキターレの建物の約2倍程度、現在建物は無く予定地は空き地となっている。

(座長) 行政としては子育て支援機能を置くこと。それ以外の意見があれば加えていくが、それを行政がするのか民間がするのかのスキームはアイデアしだい。ただし、運営が持続

可能であることがもっとも大切。

(委員) 駅北大火を経験して、防火防災を目的に市民公園の整備など、まちなかの防災機能を高めてきた。にぎわいに関しては、一昨年の市民会議で、キッズドリーム、ブックアンドランドリー、暮らしのシェアの活動アイデアや、その前にはまちなかに温泉とか銭湯という話もでていたように記憶している。駅北の宿場町であった歴史や全国で近年多発している水害等の災害時の公衆衛生の場の確保の視点からも、銭湯という機能がまちなかにあっても良いのではないかと感じている。

(座長) 復興計画に拠点施設の計画があるといっているときに、風呂が必要だと言った記憶はある。防災の視点として、九州で個人住宅の風呂を銭湯としている人がいる。住宅の風呂を銭湯として開放する理由は、熊本地震のときに一番困ったから。必要なのは災害時にだけ使うのではなく、日常で使っていることが災害時にも効果を発揮することが大切。もう一つは空き家等の対策として、水回りの改修が一番大変な空き家等も風呂が近隣にあれば改修をせずして運営ができる。防災対策としての風呂、空き家空き店舗対策としての風呂の2つの視点で、運営できるスキームを考える。ちゃんとしたお風呂があるまちはポテンシャルがあがり、良い効果もでてくるのではないかと考えている。

(傍聴者) = 大きなタワー、風呂の設置希望の意見あり =

(座長) 地域のためになって、ちゃんと運営できることが大事ですね。

(委員) 暮らしがテーマだったり、にぎわいの拠点施設を含めて、まちなかが大家族の家みたいなコンセプトがいいなと思います。

(座長) 行政から明確にしたことは、複数分散型であることで行政としてやることはやるし、民間で考えられることは連携していく。もう1つ市がやるとすると保有している土地を使って、子育て支援機能を強化する場所を作りたい。民間で実施していく銭湯などのアイデアは今後もだしてもらいまとめていければいいと考えている。

4 連絡事項等

(事務局) 次回は、9月1日(火)にキターレにて開催します。本日の議論を整理して確認いただきたいと思います。

5 閉 会